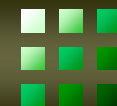




2010年3月期 決算説明会

LECIP レシップ株式会社

2010年 5月



▶ 1. 2010年3月期 業績概要・主な項目の進捗状況:P 3~P18

■ 2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P20~P22

■ 3. 中長期的な成長に向けた方向性:P24~P30

- 中期経営計画「CE2012」の概要-
- 純粋持株会社体制への移行について-

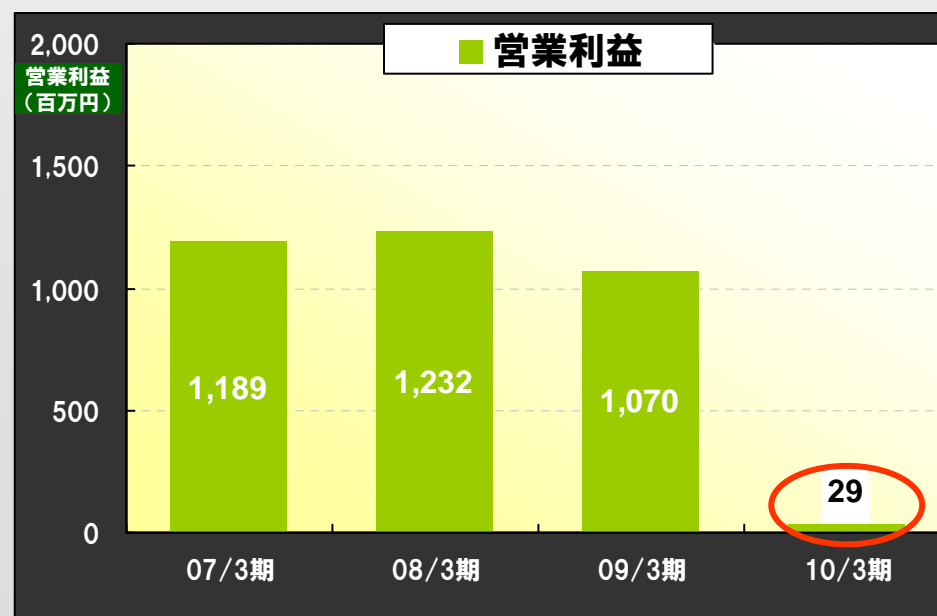
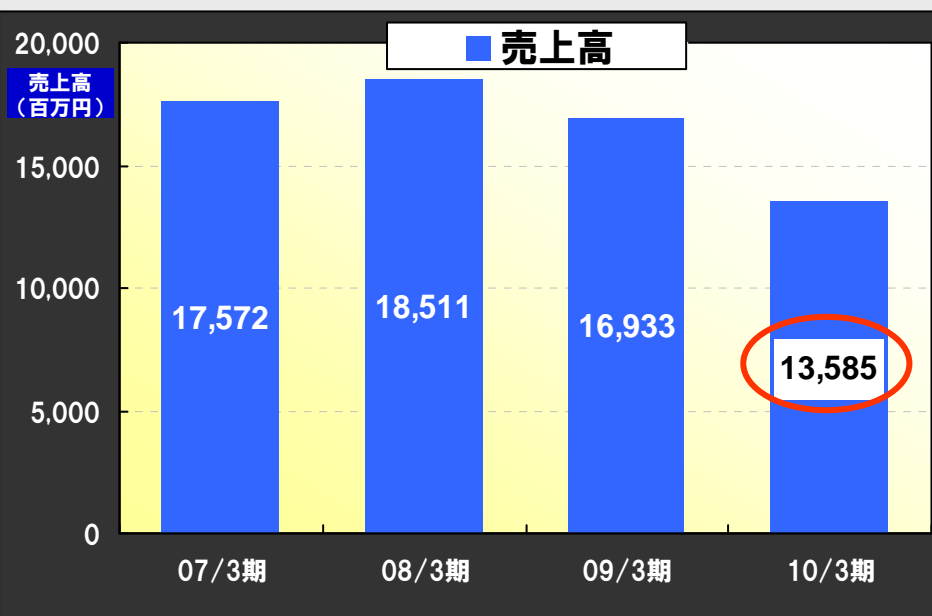
■ **【ご参考資料】**:P32~P39

- 会社概要・事業内容・主なトップシェア製品
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

2010年3月期 連結業績の要約



【連結】 通期業績 (単位:百万円)	2009年3月期		2010年3月期					
	① 前期実績	構成比	② (09年5月) 当初発表 業績予想	③ (10年4月) 修正発表 業績予想	④ 実績	構成比	前期比 増減額 ④-①	前期比 増減率
売上高	16,933	100.0%	15,600	13,585	13,585	100.0%	▲3,347	▲19.8%
売上総利益	4,122	24.3%	—	—	2,691	19.8%	▲1,431	▲34.7%
営業利益	1,070	6.3%	750	29	29	0.2%	▲1,040	▲97.2%
経常利益	1,104	6.5%	820	64	64	0.5%	▲1,040	▲94.2%
当期純利益	521	3.1%	460	41	41	0.3%	▲479	▲92.0%



2010年3月期 セグメント別業績



売上高 (単位:百万円)	2009年3月期		2010年3月期			
	前期実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	12,235	72.3%	9,107	67.0%	▲3,128	▲25.6%
S&D事業	1,258	7.4%	1,380	10.2%	+121	+9.7%
産業機器事業	3,438	20.3%	3,097	22.8%	▲341	▲9.9%
連結売上高	16,933	100.0%	13,585	100.0%	▲3,347	▲19.8%

営業利益 (単位:百万円)	2009年3月期		2010年3月期			
	前期実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	1,555	133.7%	424	456.6%	▲1,130	▲72.7%
S&D事業	▲352	▲30.3%	▲209	▲225.0%	+143	赤字幅改善
産業機器事業	▲40	▲3.4%	▲122	▲131.6%	▲82	-
計	1,162	100.0%	92	100.0%	▲1,069	▲92.0%
消去・全社	(92)	-	(63)	-	▲28	▲31.3%
連結営業利益	1,070	-	29	-	▲1,040	▲97.2%

業績のポイント

前期比: 減収  減益 

- ▶ 輸送機器事業と、産業機器事業のマイナス幅が大きく、減収・減益の要因に。
- ▶ S&D事業は、増収・赤字幅縮小。

▼ マイナス要因

輸送機器事業

- バス用運賃箱やOBCの販売は堅調に推移したものの、ICカードシステムが減少。
- 景気低迷の影響により、トラック用蛍光灯具の販売が落ち込む。

産業機器事業

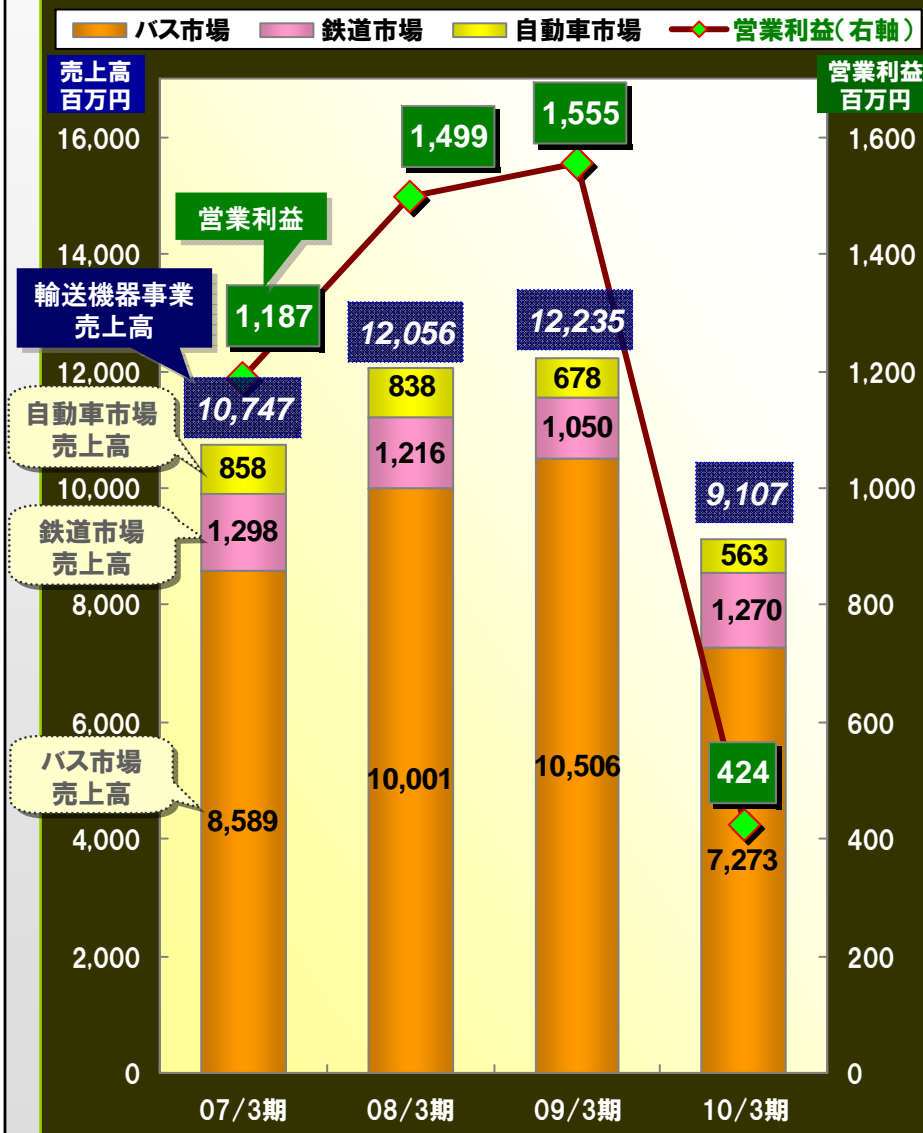
- バッテリー式フォークリフト用充電器や、物販共用読み取り端末などが低迷。

➤ プラス要因

S&D事業

- 不採算が続いていた米国向けネオン変圧器販売事業からの撤退、タイ国の生産子会社THAI LECIPの閉鎖など再編を進める。
- ネオン変圧器の減少続くも、LED電源の拡販を進め、成長分野へのシフトを加速。

輸送機器事業：売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ 31億28百万円 ▲ 25.6%
■ 営業利益: 前期比 ▲ 11億30百万円 ▲ 72.7%

バス市場製品売上高

前期比: ▲ 32億32百万円 (▲ 30.8%)

▶ バス用ICカードシステムが、大口物件の一巡により、減少

▶ バス用運賃箱や、OBCの販売は前年実績を上回り、堅調推移



鉄道市場製品売上高

前期比: + 2億19百万円 (+ 20.9%)

▶ 北陸地区へ、ICカード関連機器を納入



自動車市場製品売上高

前期比: ▲ 1億14百万円 (▲ 16.9%)

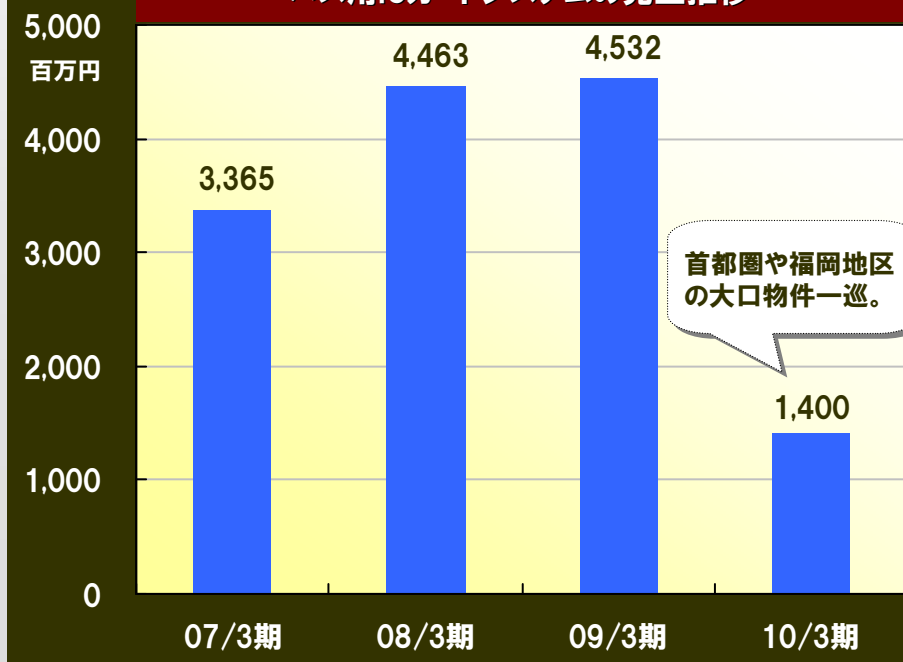
▶ トラック用蛍光灯具が、景気低迷の影響により、減少



バス用ICカードシステムの全国展開

- 2010年3月期は、首都圏や福岡地区向けの大口物件が一巡し、減少
 ➡ 2010年3月期は、名古屋地区などへの納入を進める
- 導入のペースが鈍化したものの、全国的には、普及途上
- これまでの実績を追い風に、引き続き、全国展開を推進
 ➡ 国内トップシェア(2010/3期シェア:52.2%)

バス用ICカードシステムの売上推移



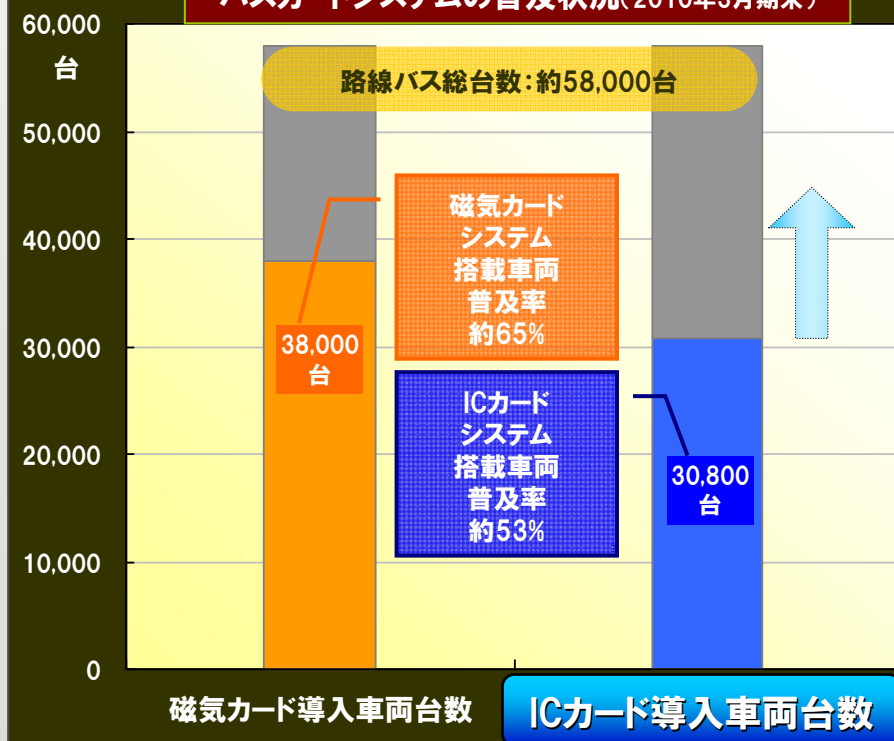
ICカード対応運賃箱・ICカードリーダー・ライター



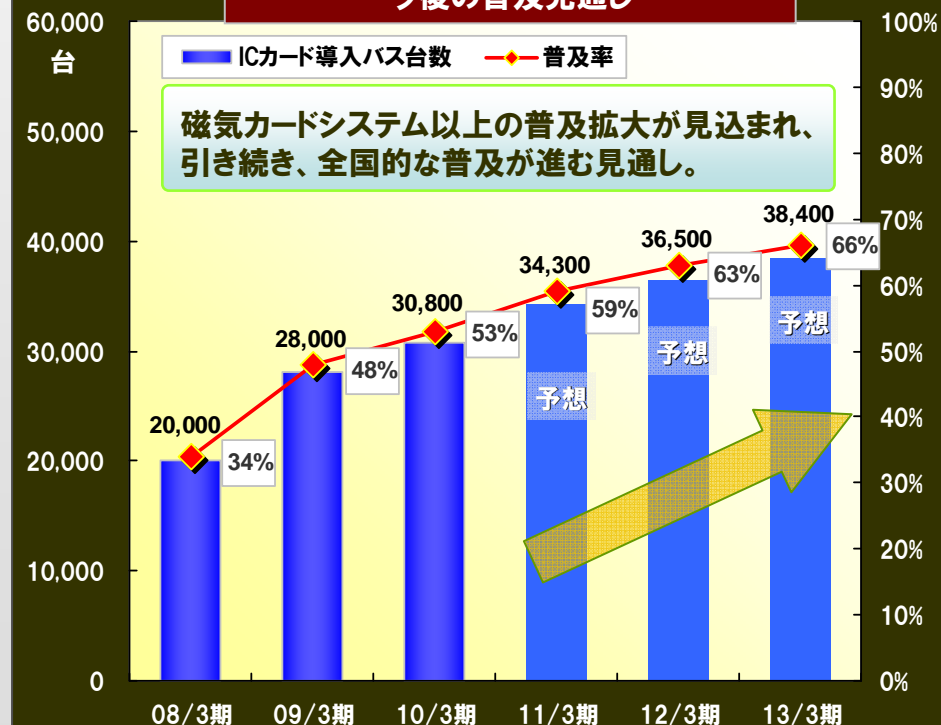
バス用ICカードシステムの普及見通し

- 国内の路線バスの台数：約58,000台
うち、従来型の磁気カード式運賃精算システム導入車両台数：約38,000台・普及率約65%
- 現状、ICカードシステムの普及台数：約30,800台・普及率約53%
- 全国的な導入拡大により、普及率は、70%程度まで進むと予想

バスカードシステムの普及状況(2010年3月期末)

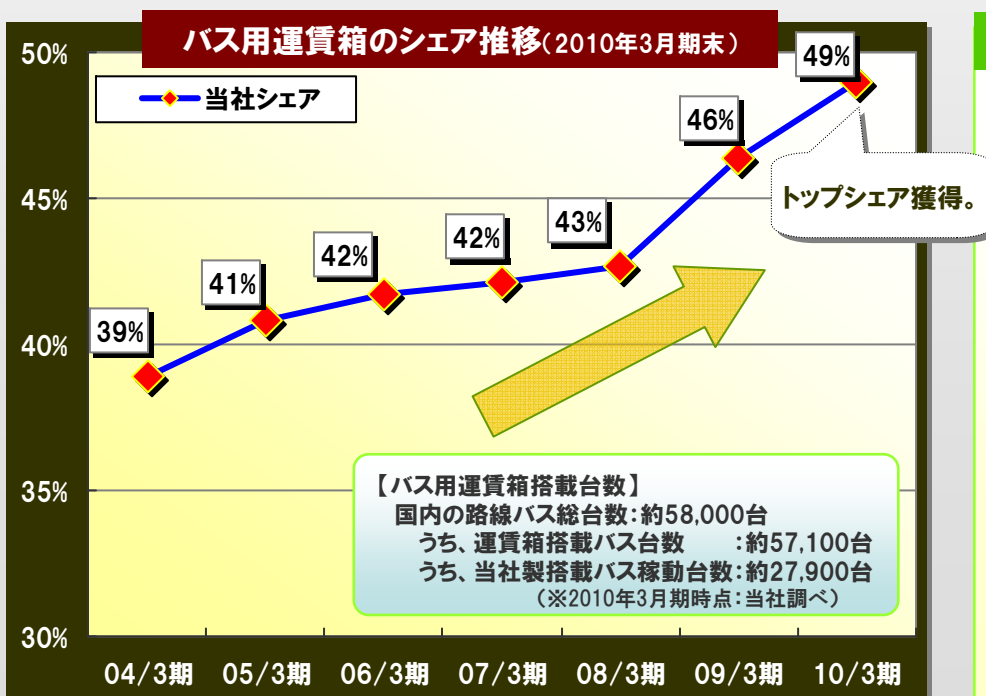


今後の普及見通し



バス用運賃箱のシェアアップ

- バス用運賃箱のシェア拡大続く。2010年3月期の上期に、シェア逆転し、トップシェア獲得
- 運賃箱の薄型化と、高額紙幣への対応を実現
 - ➡ バリアフリー、省エネに貢献：従来の機能はそのままに、20%以上の薄型・軽量化を実現
 - ➡ 乗客の利便性向上：1万円札、5千円札の高額紙幣両替、ICカードへの積増入金も可能に
- 得意とするICカードシステムの普及拡大も追い風
 - ➡ ICカードシステム導入の際、当社のICカード対応運賃箱が採用される



薄型運賃箱

従来型



新モデル：薄型運賃箱



小型・高速紙幣循環機構の技術開発により、千円札最大80枚分の一時保留が可能。
 高額紙幣による両替やICカードへの積増入金が可能に。

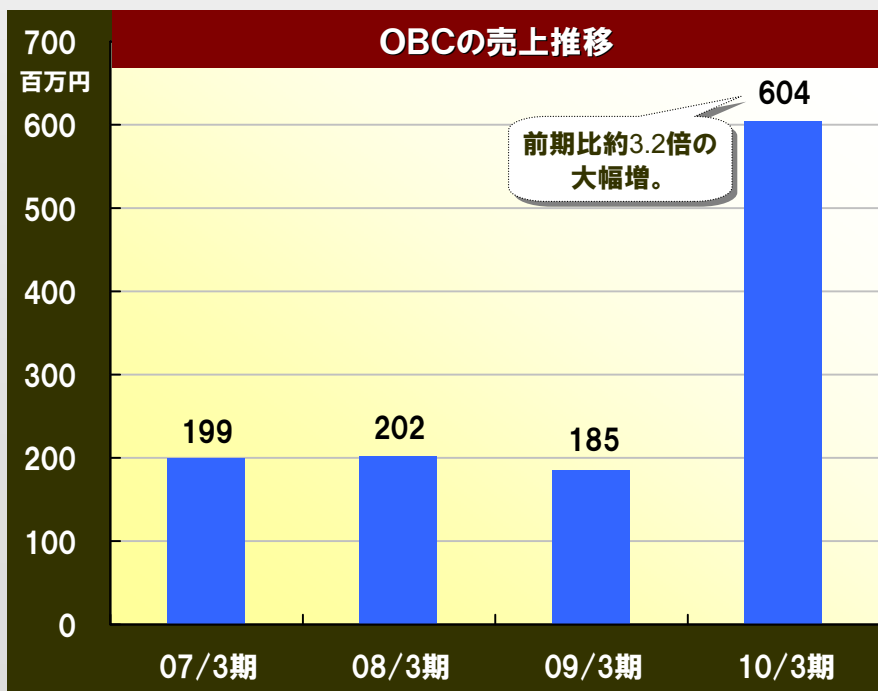


OBC(液晶表示器)の拡販推進

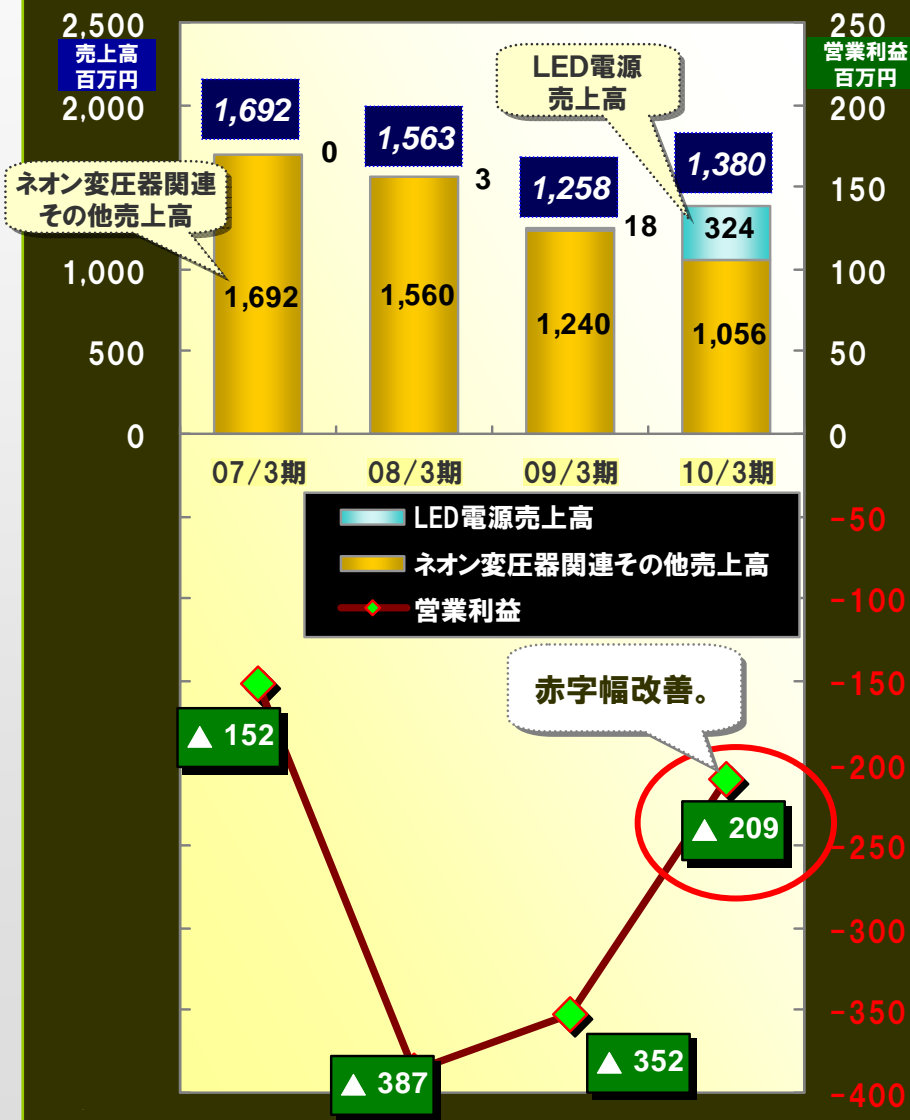
- 2010年3月期は、前期比約3.2倍、大幅な増加
➡ 引き続き、今期も拡販を見込む
- 乗客の利便性向上、バス会社の業務効率化に貢献
➡ 運賃、路線情報、運行案内、ニュース、CM等、様々なコンテンツの表示が可能に
バス車載機器のデータ(運賃データ、表示データ等)を一元管理、集中制御
- 「リアルタイム乗客情報システム(PIS)」の開発・提案を推進
➡ 多くの有益な情報のリアルタイム配信が可能に



運賃・停留所表示のほか、運行案内や、ニュース、CMなど多彩な情報配信が可能。



▶ S&D事業:売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ + 1億21百万円 + 9.7%
■ 営業利益 : 前期比 ▲ + 1億43百万円 -

■ ネオン変圧器関連その他

前期比: ▲ 1億84百万円 (▲14.9%)

- ▶ ネオンサイン市場の縮小
- ▶ 景気低迷に伴い、小型変圧器等も減少
- ▶ 米国ネオン変圧器販売事業から撤退



■ LED電源

前期比: +3億05百万円 (17.5倍)

- ▶ 省エネ・環境対応も追い風となり、LED照明の普及拡大
- ⇒ 蛍光灯型LED灯具向けへの採用決定により、大幅増。今後も更なる拡大を見込む



■ 外部環境の改善

- ▶ 銅価格は上昇するも、鉄価格、タイ・パーツは低い水準で推移
 - ・銅価格: 上昇 : 前期比: + 約 4% 上昇
 - ・鉄価格: 下落 : 前期比: ▲ 約 29% 下落
 - ・タイ・パーツ: 下落: (円 建): 前期比: ▲ 約 12% 下落
(ドル建): 前期比: ▲ 約 4% 下落

海外事業戦略の再構築 ～ネオン変圧器ビジネスの再編～

米国向けネオン変圧器が、S&D事業の利益を圧迫。今後もネオンサイン市場の縮小が予想される

■ 不採算事業の再編

▶ 米国のネオン変圧器販売事業から撤退

- 米国におけるネオン変圧器の販売事業を、Allanson Inc.(本社:米国・NY、事業内容:ネオン変圧器・燃焼器具用変圧器等の製造・販売)へ譲渡
当社の販売は、日本国内向けに特化
- Allanson Inc.向けに、在庫の販売を進め、2010年6月までに、米国向けネオン変圧器から完全撤退

▶ タイ国の生産子会社 THAI LECIPを閉鎖

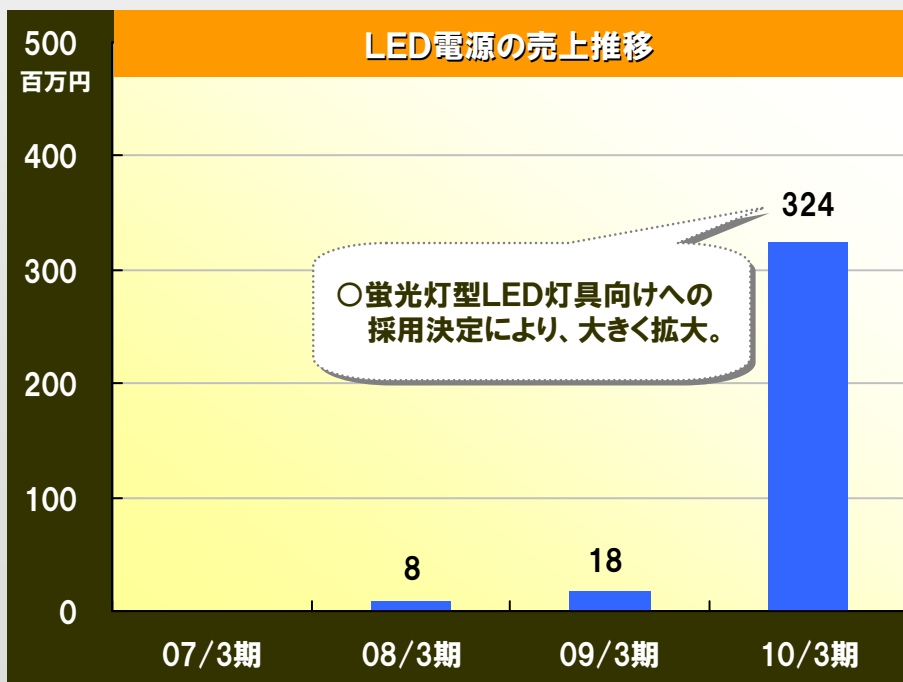
- タイ国におけるネオン変圧器等の生産子会社 THAI LECIP CORPORATION LIMITEDを、昨年2009年9月に閉鎖 ⇒ 会社清算準備を進める(清算終了予定:2011年9月末)

- 再編に係る費用として、1億26百万円の損失を計上
-内訳- ・売上原価への影響:76百万円(棚卸資産の廃棄損および評価減)
・特別損失:49百万円(THAI LECIP従業員特別退職金:29百万円、固定資産減損損失:19百万円)

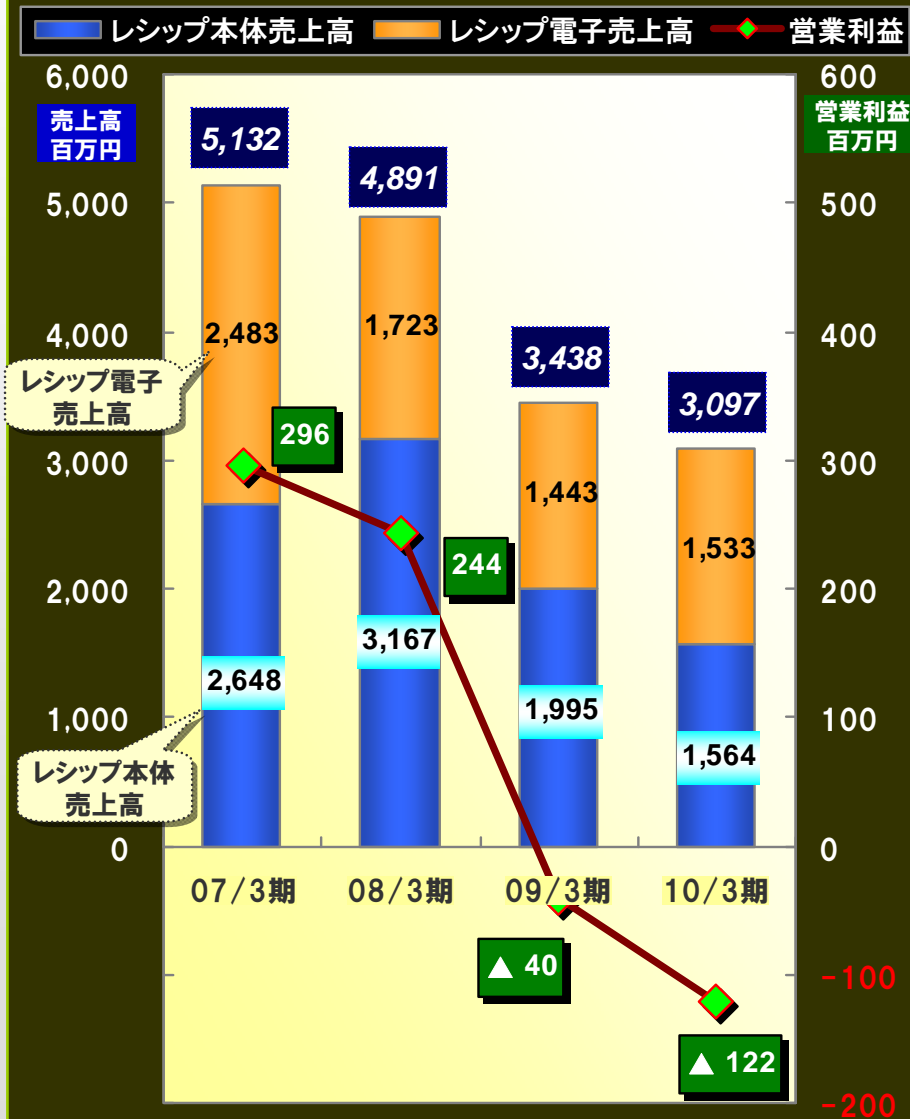
▶ LED電源など、成長が期待される分野へ経営資源特化

LED電源の拡販推進

- 2010年3月期は、大幅な拡大
 - ➡ 2009年4月に、省エネ法改正。「省エネ・環境対応」意識高まる
照明分野における、LEDの導入拡大が追い風となり、電源の需要も増勢
- コンビニ店舗のLED看板に続き、店舗やオフィス照明として普及が進む
蛍光灯型LED灯具向けへの採用決定
- 引き続き、S&D事業の新規基幹商品として、拡販注力 ➡ 今期も、大幅な拡大見込む



▶ 産業機器事業：売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ 3億41百万円 ▲ 9.9%
■ 営業利益: 前期比 ▲ 82百万円 —

フォークリフト用充電器、無停電電源装置

前期比: ▲ 3億59百万円 (▲ 29.4%)

▶ 景気低迷に伴う設備投資抑制の影響

▶ フォークリフト用充電器
(前期比: ▲ 3億13百万円)



▶ CATV基地局・PHS基地局用無停電電源装置
(前期比: ▲ 46百万円)

物販共用読み取り端末

前期比: ▲ 99百万円 (▲ 57.3%)

▶ 流通業界における新規出店の手控え続く



レシップ電子・プリント基板実装

前期比: + 89百万円 (+ 6.2%)

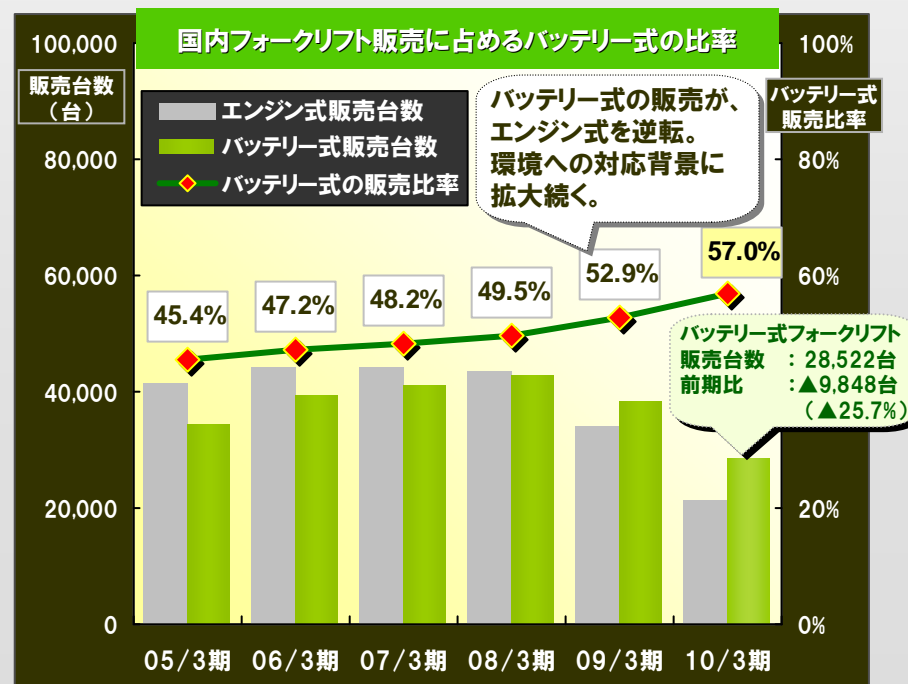
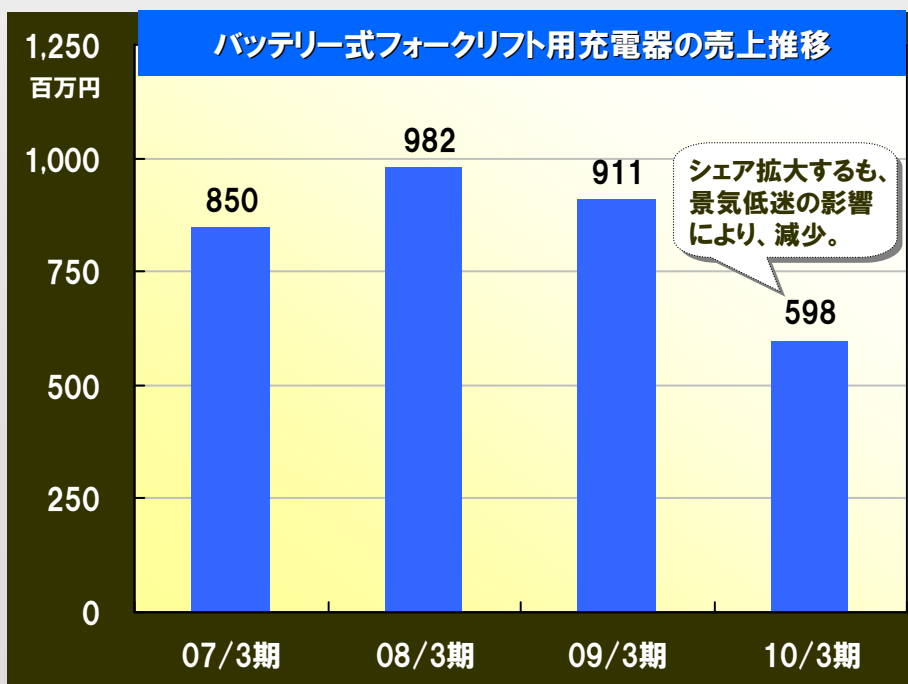
▶ 自動車用電装品向け基板 (前期比: + 2億49百万円)

▶ 電子機器向け基板 (前期比: ▲ 1億59百万円)



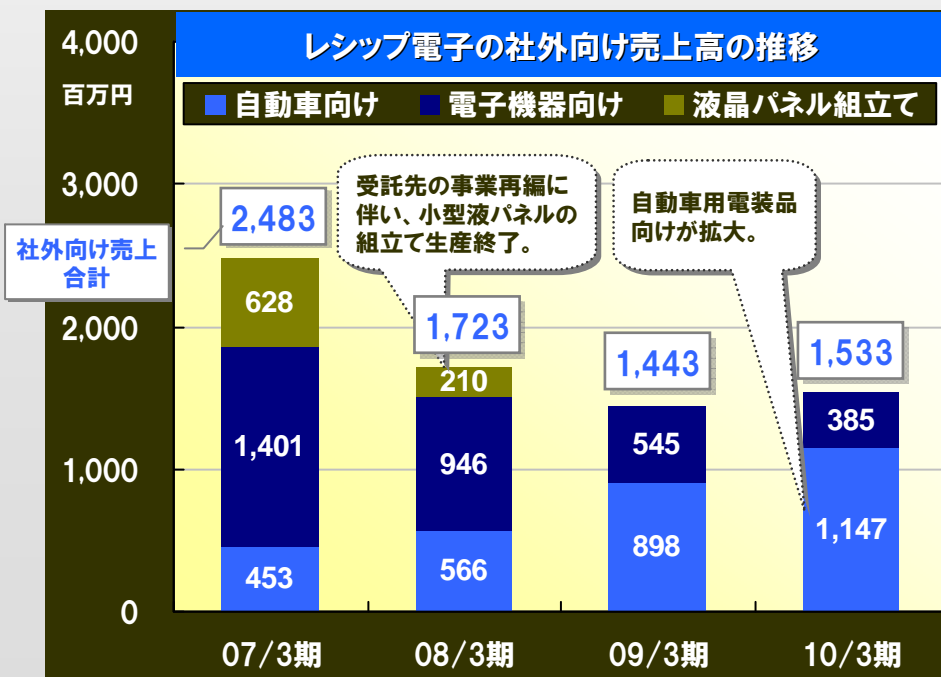
バッテリー式フォークリフト用充電器

- 2010年3月期は、景気低迷に伴う産業用車両減産の影響により、販売低迷
 ➡ シェアは拡大(2009/3期シェア:58.8%→2010/3期シェア:59.5%)
- 環境対応を背景に、フォークリフト業界でもバッテリー式の販売比率高まる
 ➡ 国内フォークリフト販売に占めるバッテリー式の比率(2009/3期:52.9%→2010/3期:57.0%)
- 今後も、バッテリー式の販売比率は高まる見通し
 ➡ 次世代電池対応に向けた開発推進



レシップ電子・プリント基板実装事業

- 電子制御化進む自動車用電装品向け基板の需要に対応
- 社外向け売上高は、電子機器向け低迷するも、自動車用電装品向けが拡大
 - ➡ 工数低減など、採算面の向上にも注力
- 当社グループ内では重要な位置づけ
 - ➡ 自社グループ内に基板実装ラインを有していることで、当社製品に使用される基板を安定的に調達できる強み
顧客の仕様にも柔軟かつスピーディに対応可能であり、高い信頼とご評価をいただく



レシップ電子・プリント基板実装ライン



連結損益の状況

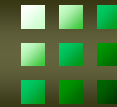


【連結P/L】	2009年3月期		2010年3月期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	16,933	100.0	13,585	100.0	▲3,347	
売上総利益	4,122	24.3	2,691	19.8	▲1,431	
販売管理費	3,051	18.0	2,661	19.6	▲390	人件費:▲167百万円、運送費:▲56百万円、 広告宣伝費:▲30百万円、旅費交通費:▲28百万円、 減価償却費:▲14百万円、事務用経費:▲14百万円
営業利益	1,070	6.3	29	0.2	▲1,040	
営業外収益	73	0.4	81	0.6	+7	雇用調整助成金: +18百万円、 為替差益:▲10百万円
営業外費用	39	0.2	46	0.3	+7	為替差損: +10百万円
経常利益	1,104	6.5	64	0.5	▲1,040	
特別利益	18	0.1	46	0.3	+28	前期損益修正益: +31百万円
特別損失	163	1.0	63	0.5	▲99	前期計上S&D事業減損損失:▲91百万円、 前期計上棚卸資産評価損:▲27百万円、 THAI LECIP閉鎖による減損損失: +19百万円、 同現地従業員特別退職金: +29百万円
税金等調整前純利益	960	5.7	46	0.3	▲913	
法人税等合計	438	2.6	4	0.1	▲433	
当期純利益	521	3.1	41	0.3	▲479	

連結貸借対照表の主な増減項目



【連結B/S】	2009年3月期 期 末		2010年3月期 期 末			
	金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	7,904	75.9	7,987	75.9	+82	売上債権 : +709百万円、 現預金 : ▲339百万円、 棚卸資産 : ▲224百万円
固定資産	2,513	24.1	2,534	24.1	+21	有形固定資産 : ▲196百万円、 繰延税金資産 : +130百万円、 投資有価証券 : + 83百万円
資産合計	10,417	100.0	10,521	100.0	+103	
流動負債	4,281	41.1	4,324	41.1	+42	短期借入金 : +446百万円、 仕入債務 : +135百万円、 未払法人税等 : ▲334百万円、 賞与引当金 : ▲ 93百万円、 役員賞与引当金 : ▲ 14百万円
固定負債	796	7.6	908	8.6	+111	長期借入金 : + 105百万円
負債合計	5,078	48.8	5,232	49.7	+154	
純資産合計	5,339	51.2	5,289	50.3	▲50	利益剰余金 : ▲ 66百万円
負債・純資産合計	10,417	100.0	10,521	100.0	+103	



■ 1. 2010年3月期 業績概要・主な項目の進捗状況:P 3~18

▶ 2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P20~P22

■ 3. 中長期的な成長に向けた方向性:P24~P30

- 中期経営計画「CE2012」の概要-
- 純粋持株会社体制への移行について-

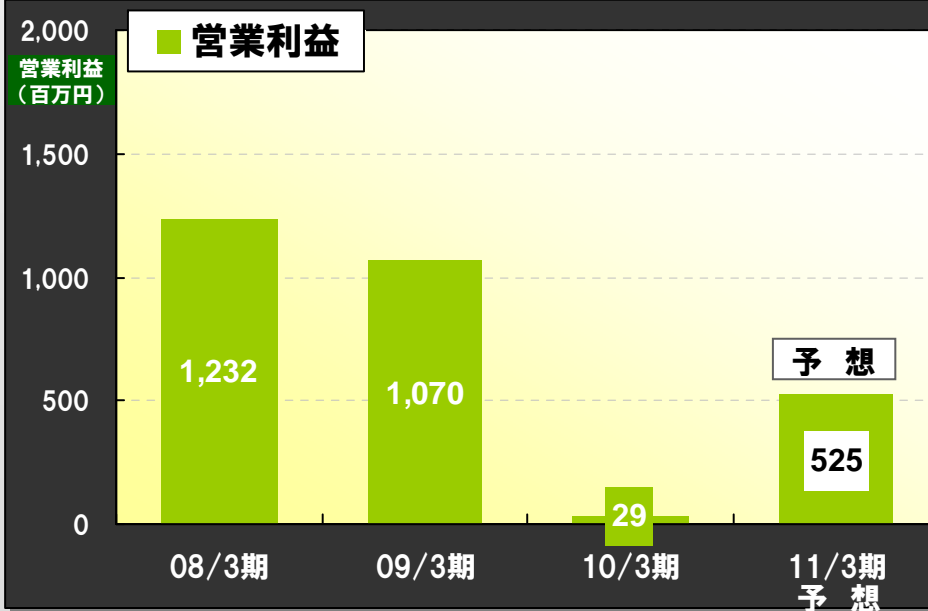
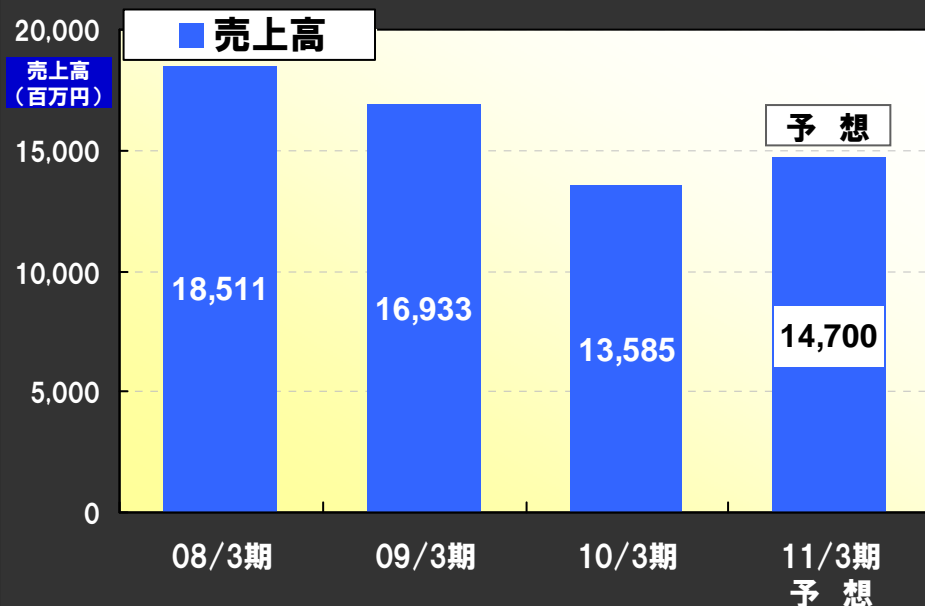
■ 【ご参考資料】:P32~P39

- 会社概要・事業内容・主なトップシェア製品
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

2011年3月期 業績見通し



連結業績予想	2010年3月期 実績 (百万円)	構成比 (%)	2011年3月期 業績予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	13,585	100.0%	14,700	100.0%	+1,114	+8.2%
営業利益	29	0.2%	525	3.6%	+495	+1,677.8%
経常利益	64	0.5%	565	3.8%	+500	+781.9%
当期純利益	41	0.3%	335	2.3%	+293	+700.8%
E P S (円)	6円55銭	—	52円42銭	—	+45円87銭	+700.8%



業績予想のポイント




前期比:増収  増益 

➤ プラス要因

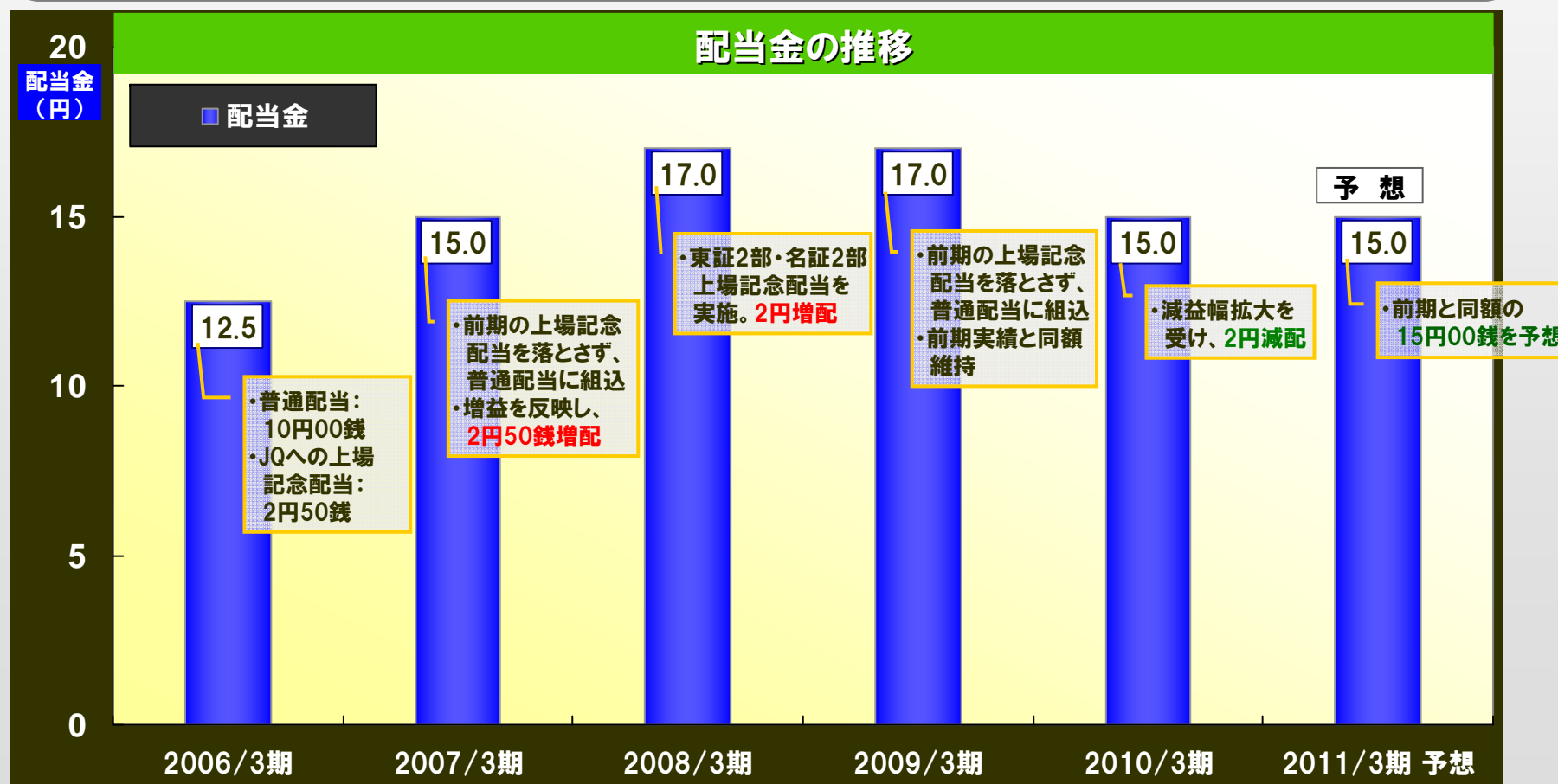
- 輸送機器事業と、S&D事業の増加を見込む。-主力のバス市場向け製品の増加と、LED関連製品の拡販
- 前期2010年3月期に実施したS&D事業の不採算事業再編に係る費用計上が無くなる。
 -前期に計上したS&D事業の再編費用:1億26百万円(売上原価への影響:76百万円、特別損失:49百万円)

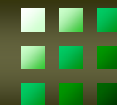
⬇ マイナス要因

- 産業機器事業では、引き続き、低迷が予想される。

前 期 比		内 容
輸送機器	【増 加】 	・主力のバス市場向け製品では、OBCの拡販や、バス用運賃箱、整理券発行器などの増加を見込む。 ・自動車市場向け製品で、LED灯具やLED電球など、LED関連製品の拡販を見込む。
S&D	【増加(改善)】 	・LEDの普及拡大が追い風。LED電源の更なる拡大と、蛍光灯型LED灯具の拡販を見込む。 ・前期に実施した不採算事業の再編に係る費用計上が無くなる。
産業機器	【減 少】 	・引き続き、レシップ本体の電源関連機器や、物販共用読み取り端末の低迷が予想される。 ・レシップ電子のプリント基板実装は、自動車向け中心に、回復基調。

- 2010年3月期の配当は、減益幅の拡大を受け、**2円減配**となる**15円**
- 2011年3月期の配当予想も、引き続き、**15円を維持**
- 継続的かつ安定的な利益還元に努める





1. 2010年3月期 業績概要・主な項目の進捗状況:P 3~P18

2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P20~P22

▶ **3. 中長期的な成長に向けた方向性:P24~P30**

-中期経営計画「CE2012」の概要-
-純粋持株会社体制への移行について-

■ **【ご参考資料】:P32~P39**

- 会社概要・事業内容・主なトップシェア製品
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

—2010年度～2012年度:中期経営計画—

【 CE2012 】

CE = Comfortable Everyday 「快適な日常」

【経営理念】

「省エネルギー」・「地球環境対応」・「セキュリティ強化」を通じて、
快適な日常を実現するための製品・サービスを社会に提供する。

【当社の課題】

- ポストICカードシステム、 ● 国内市場成熟化
⇒ ICカードシステムに続く「新規基幹商品の育成」
⇒ 「海外市場展開」

【社会全体の課題】

- 省エネルギー・地球環境対応
⇒ 公共交通の利用促進
⇒ 環境対応製品の普及促進

【 CE2012における基本方針 】

- 周辺市場の取り込み及び新市場への参入
- 提案型企业への脱皮
- 業務の見直し、経費節減意識の向上

【 重点課題 】

- 新商品開拓への力強い熱意
- 五つの総ての市場での海外展開
- コスト競争力の強化

【今後の成長に向けた方向性】

リアルタイム乗客情報
システムの推進

LED関連ビジネス
の強化

海外市場展開
の強化

▶ 【CE2012 最終年度目標】 売上高:200億円 経常利益:20億円

リアルタイム乗客情報システム(PIS)の推進

■ バス車内で

市民体育館前				四軒家西口
1	2	3	4	↓ 四軒家
2030	1030	980	930	
5	6	7	8	
880	830	780	730	↓ 本地ヶ原
9	10	11	12	
680				↓ 瀬戸駅前



幕張西二丁目				幕張西二丁目 乗り換え案内	
幕なし	1	2	3	11:07	11:19
160				11:26	11:30
4	5	6	7	11:39	11:50

ご乗車ありがとうございます。この表示器

マリスタジアム	海浜幕張駅 乗り換え案内
Marine Stadium	16:50 17:00
海洋球場	17:05
마린스타디움	17:10
	17:12

雪の影響により、たまたま総武線は約15分

バス車内に加え、
屋外にも表示器を設置し、
ネットワーク化

多くの有益な情報を
文字・イメージ・マルチ言語・音声で
リアルタイム配信

- ▶ バス接近表示情報
- ▶ 乗換の案内
- ▶ 周辺施設の案内
- ▶ 遅延・運休情報
- ▶ ニュース・CM
- ▶ 緊急情報
(事故、火災、地震、気象)
- ▶ 災害情報
(避難指示、安全、消息情報)

■ バスセンター・バス停で



京成バスのご案内	
1 幕張駅	11:10
2 Marine Stadium	11:15
3 Tsudanuma Sta.	11:35
4 SUIFUKU STA.	11:45
5 Nakatori Station Line	12:00
6 Kashiwa-Kanagawa Sta.	12:05



LED関連ビジネスの強化

■ LED電源

～屋内照明、屋外看板の蛍光灯型LED灯具向け～



- 省エネ・環境対応も追い風となり、店舗やオフィスの照明に、蛍光灯型LED灯具の普及拡大
⇒ 当社のLED電源の販売も大きく拡大
- 長年の屋外用電源で培われた樹脂充填技術により、優れた耐久性を実現
- 更なる拡販を図るべく、蛍光灯型LED灯具(社外調達)との、セット販売開始
⇒ 電源と、灯具とのパッケージ化により、更なる販売促進

■ 車載照明用LED灯具・LED電球

～車内・荷室照明用途向け～



- 長年、バス・鉄道・自動車用蛍光灯具の製造・販売を展開
⇒ バス・トラック用蛍光灯具で、70%以上のシェアを獲得
- 車載用照明機器の分野でも、LED化が進む見通し
- 自動車用LED灯具、LED電球を製品化し、販売開始
- バスや鉄道向けにも展開を図る
⇒ これまでの車載用蛍光灯具での実績を活かし、拡販めざす

▶ 当社製品の強みは、優れた「耐久性」

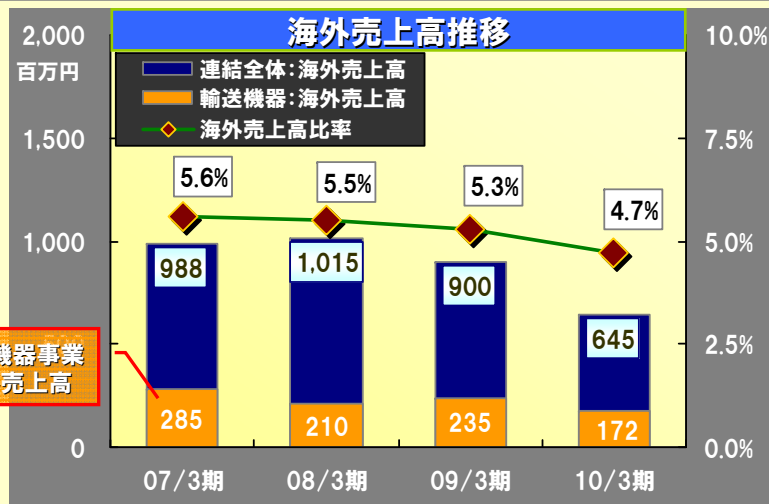
～長年の、屋外、車載向け等、厳しい使用環境用途向けの製品開発を通じ、多くのノウハウを蓄積～

▶ 長寿命のLEDでは、製品の「耐久性」もポイント

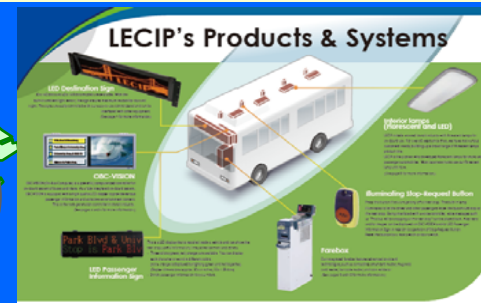
▶ 当社の強みを活かし、LED関連ビジネスの強化を図る

海外市場展開の強化

- 主力の輸送機器事業を中心に、海外市場展開を強化
- バス市場向け製品では、シンガポール等アジア地域への営業強化に加え、北米市場の開拓を推進
 - ▶ 米国の公共交通系展示会に出展、現地事業者様へのアプローチを継続
 - ▶ 2010年3月、北米における輸送機器事業製品の販売子会社として、LECIP INC.(米国 イリノイ州)を設立
- 鉄道市場向け製品でも、車両用灯具での参入を図るべく、海外案件の受注活動と、製品開発を推進
 - ▶ 海外での受注拡大続く日本の車両メーカー様と、現地事業者様へのアプローチを継続
 - ▶ 米国・ペンシルベニア州で、鉄道用LED灯具の受注に成功。更なる拡販を図る



- 【 ■ これまでの主な納入実績 】
- シンガポール
 - :バス用磁気カードシステム、料金箱、発券機、表示器、バス総合運行管理システム
 - マレーシア:磁気カードシステム
 - 香港:ICカードリーダー
 - 中国:鉄道用蛍光灯具 等々



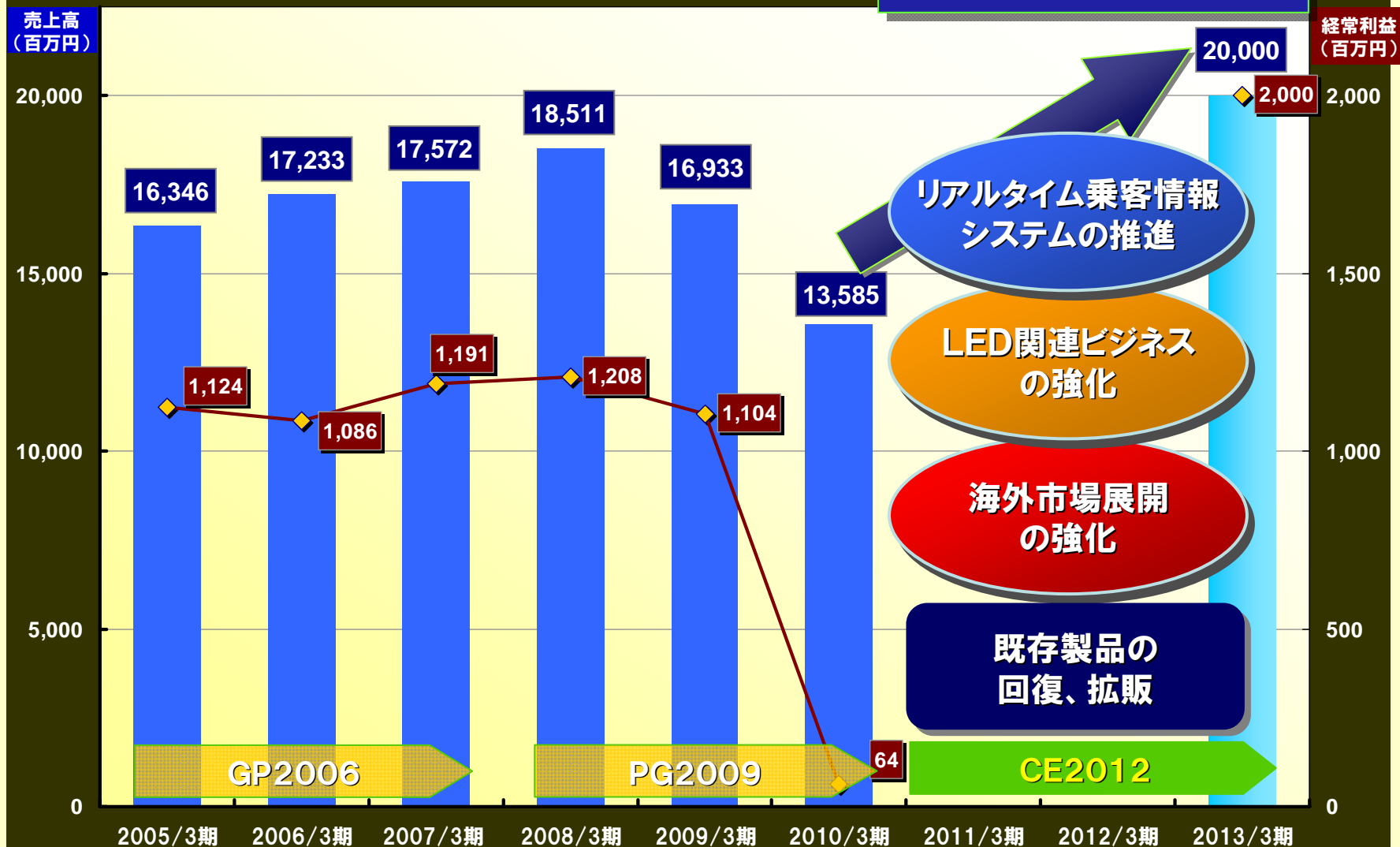
▶ 今後、海外売上比率10%以上を目標に、海外市場の開拓を推進。

中期経営計画:「CE2012」の概要

売上高・経常利益の推移

■ 中期経営計画CE2012の目標

- 売上高: 200億円
- 経常利益: 20億円



純粋持株会社体制移行の概要

2010年10月1日、**純粋持株会社体制への移行、レシップホールディングス(株)への商号変更を予定**

- ▶ 当社グループを統括してグループ全体を効率よく、運営管理できる体制の整備
- ▶ 経営資源の重点的かつ効率的な投下
- ▶ M&Aの検討推進

グループ全体の成長戦略の強化

コーポレートガバナンスの強化

マネジメント人材の強化

海外事業戦略の再構築

▶ **当社グループ全体の企業価値の最大化**

■ ポイント

- ▶ **レシップホールディングス(株)が純粋持株会社として、グループ全体を管理・統括。**
 - レシップホールディングス(株)が、グループ戦略本社機能・グループサポート機能を担う。
 - 国内事業部門は、分割により新たに設立するレシップ(株)が継承。
 - 海外事業部門は、新たに米国に設立したLECIP INC.と、分割により新たに設立するレシップインターナショナル(株)が継承。
- ▶ **上場会社名は、レシップ(株)から、レシップホールディングス(株)へ。**
 - 2010年10月1日より、上場会社名がレシップ(株)から、レシップホールディングス(株)へ変更となります。
 - 従来のレシップ(株)の株主様は、そのまま、レシップホールディングス(株)の株主様となります。
 - 証券コード(7213)、決算日、権利確定日等は、従来から変更ございません。

移行後の体制

■ 現状

※ は、連結対象会社。



■ 移行後（2010年10月1日～）

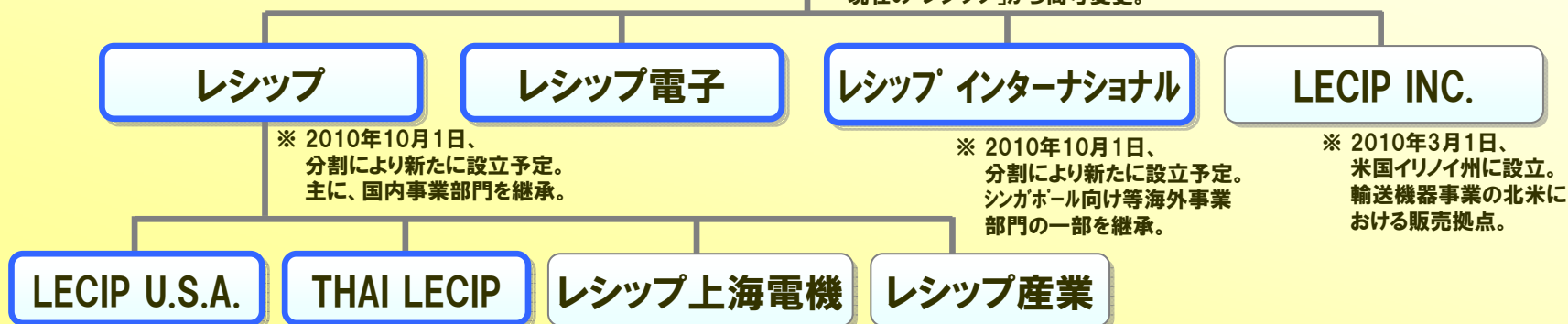
※ は、連結対象会社。

※ THAI LECIPは、S&D事業の事業構造改革に係り、今後、清算予定。

レシップホールディングス
(上場会社・純粋持株会社)

▶ レシップホールディングスが、純粋持株会社として、グループ全体を管理・統括。
(グループ戦略本社機能・グループサポート機能)

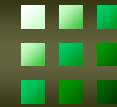
※ 2010年10月1日、現在の「レシップ」から商号変更。



※ 2010年10月1日、分割により新たに設立予定。主に、国内事業部門を継承。

※ 2010年10月1日、分割により新たに設立予定。シンガポール向け等海外事業部門の一部を継承。

※ 2010年3月1日、米国イリノイ州に設立。輸送機器事業の北米における販売拠点。



1. 2010年3月期 業績概要・主な項目の進捗状況:P 3~P18

2. 2011年3月期 通期業績の見通し・配当の状況:P20~P22

3. 中長期的な成長に向けた方向性:P24~P30

- 中期経営計画「CE2012」の概要-
- 純粋持株会社体制への移行について-

▶ **【ご参考資料】**:P32~P39

- 会社概要・事業内容・主なトップシェア製品
- 主な経営指標の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期ごとの業績推移

会社名	：レシップ株式会社（LECIP CORPORATION）
設立	：1953年3月
代表者	：代表取締役社長執行役員 杉本 眞
本社所在地	：岐阜県本巣市上保1260番地の2
連結従業員数	：478名（2010年3月末現在）
資本金	：7億3,564万円
発行済株式総数	：6,399,100株
上場証券取引所	：東京証券取引所市場第2部、名古屋証券取引所市場第2部
証券コード	：7213
連結子会社	：レシップ電子株式会社 ：THAI LECIP CORPORATION LIMITED ：LECIP U.S.A.,INC.
経営理念	：「省エネルギー」・「地球環境対応」・「セキュリティ強化」を通じて、 快適な日常を実現するための製品・サービスを社会に提供する。

■ 輸送機器事業

■ S & D(サイン&ディスプレイ)事業

■ 産業機器事業

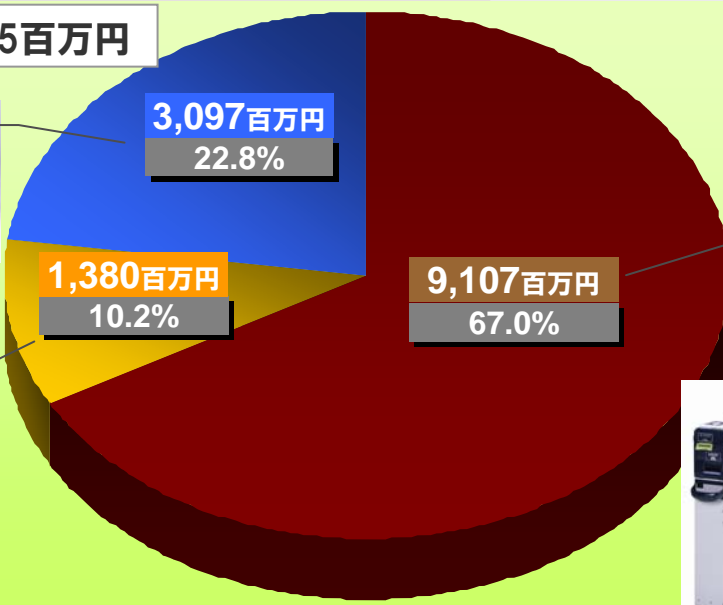
【ご参考】2010年3月期 通期の事業セグメント別売上高

2010/3期 連結売上高:13,585百万円

【産業機器事業】
充電器、無停電電源装置、
物販共用読み取り端末、
プリント基板実装



【S & D事業】
LED電源、ネオン変圧器、
屋外用電子安定器、CCL



■ 輸送機器
■ S & D
■ 産業機器

【輸送機器事業】
バス・鉄道用運賃箱、
ICカードシステム、
OBC(液晶表示器)、
LED式行先表示機器、
車載用照明機器



市民体育館前				四軒家西口			
1	2	3	4	1	2	3	4
2030	1030	980	930	4	3	2	1
5	6	7	8	4	3	2	1
880	830	780	730	4	3	2	1
9	10	11	12	4	3	2	1
680				4	3	2	1

輸送機器事業

● バス市場向け製品



- 国内唯一の、「バス用電装機器トータルサプライヤー」ワンストップソリューションを実現
- バス用ICカードシステムのパイオニア
- 多くの製品で国内トップシェアを獲得

=====【バス用機器搭載イメージ図】=====



● 鉄道市場向け製品



- ワンマン鉄道用機器と、車両用灯具を展開
- 鉄道用ワンマン機器は、国内90%以上のシェアを獲得

● 自動車市場向け製品



- 自動車用蛍光灯具のパイオニア、国内トップシェアを獲得
- LED灯具・LED電球の拡販推進

S&D事業



LED電源

(巻線式) ネオン変圧器 (電子式)



CCLのご採用事例

東京・銀座

横浜・みなとみらい

CCL (Cold Cathode Lamp)

- 不採算が続いていた米国向けネオン変圧器から撤退
- LED電源の需要が急拡大。LED照明の普及が追い風
- 建築・施設照明向けライティングシステム・CCLを展開

産業機器事業



フォークリフト用充電器



物販共用読み取り端末



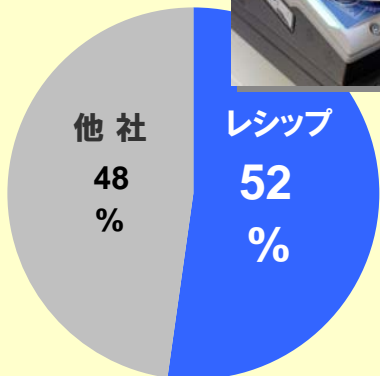
プリント基板実装ライン



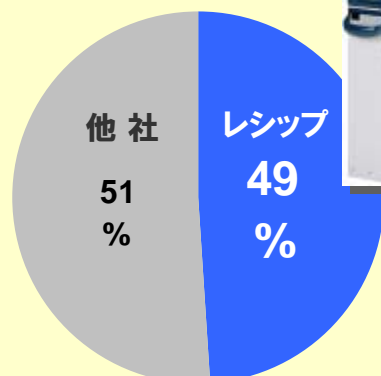
- フォークリフト用充電器で国内トップシェアを獲得
- 複数規格の電子マネーに対応する物販共用読み取り端末の開発・製造
- 連結子会社 レシップ電子において、プリント基板実装事業を展開

【ご参考】：主なトップシェア製品

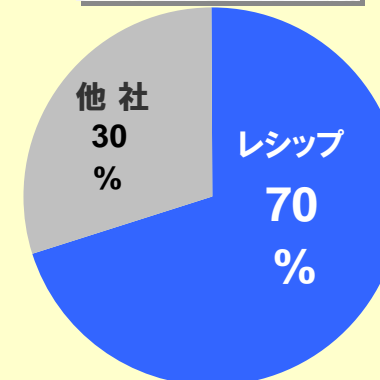
バス用ICカードシステム



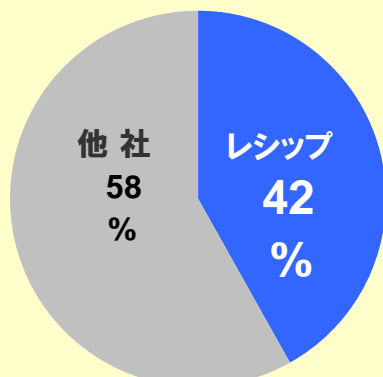
バス用運賃箱



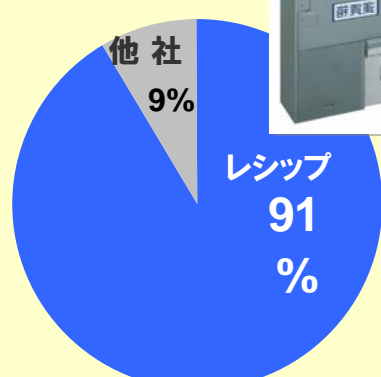
バス用液晶表示器



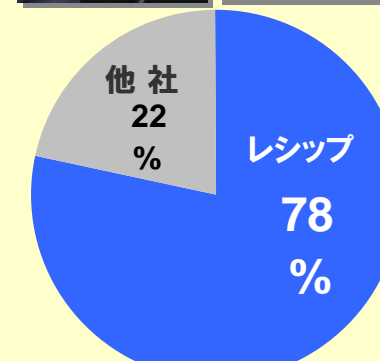
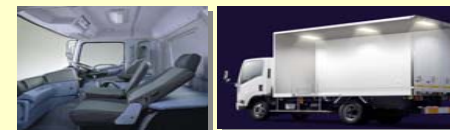
バス用LED式行先表示器



ワンマン鉄道用運賃箱



トラック用蛍光灯具



【ご参考】：主な経営指標の推移

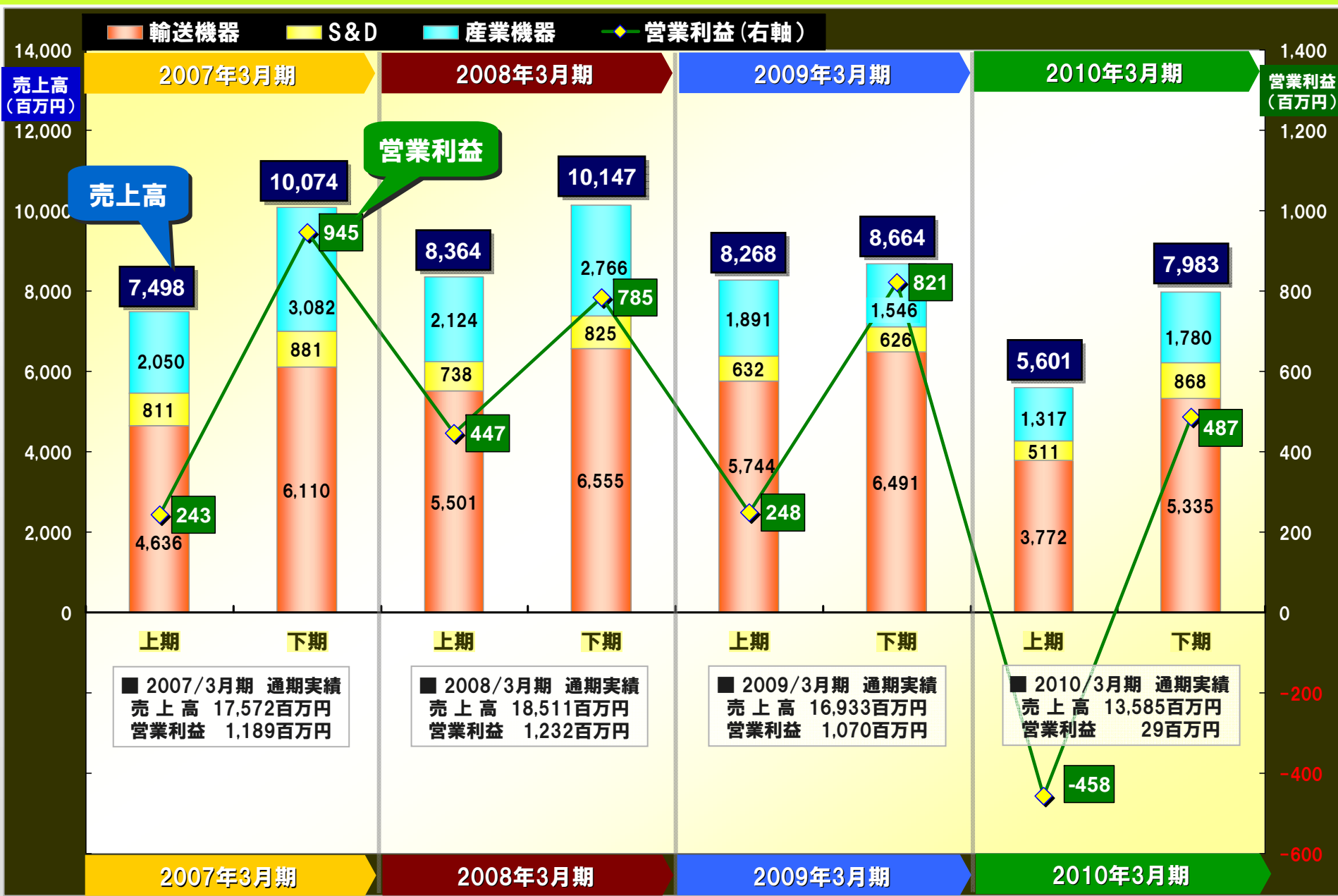


(単位:百万円)

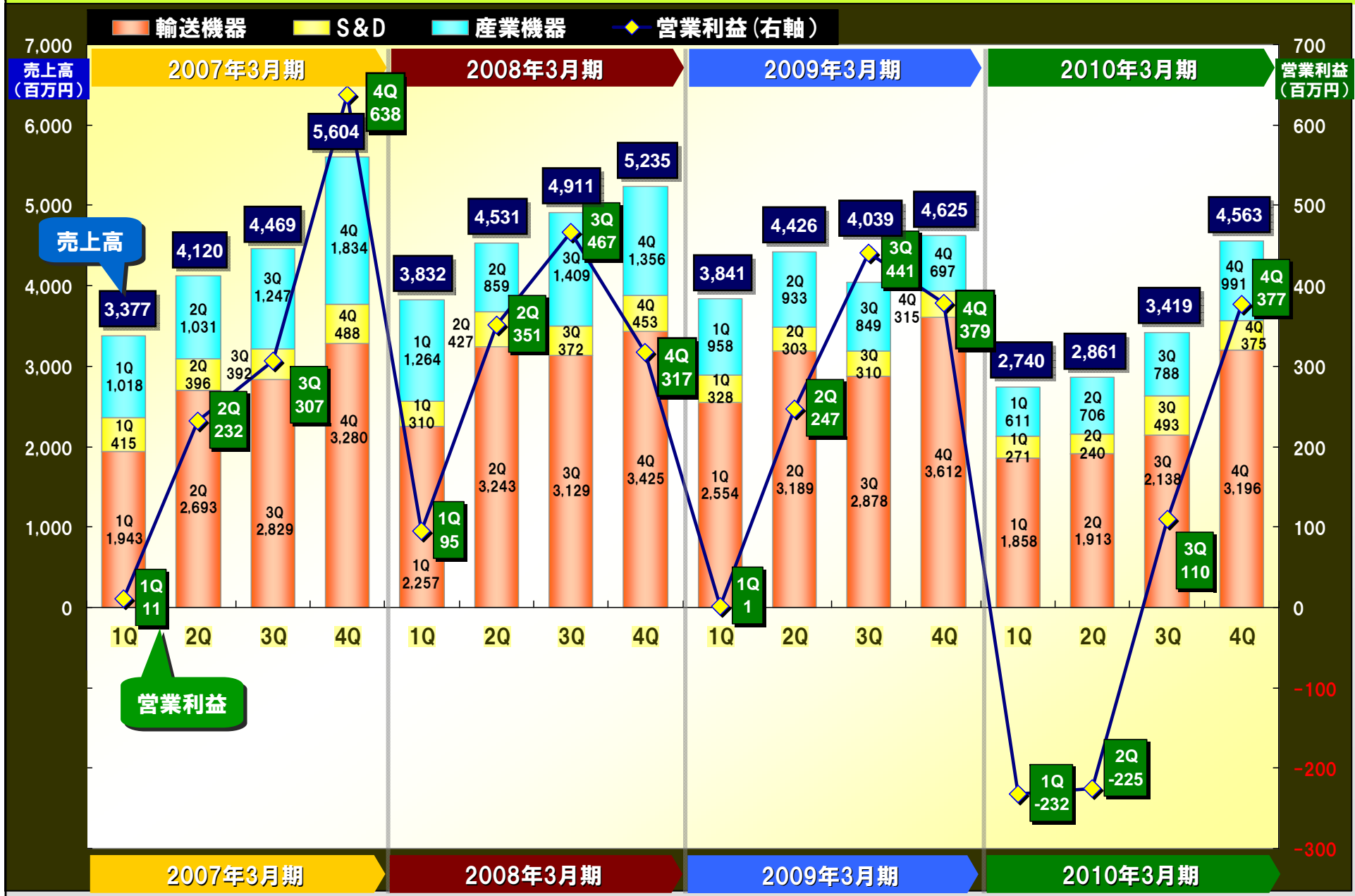
主な経営成績 指標の推移	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期 予想
売上高	15,717	16,346	17,233	17,572	18,511	16,933	13,585	14,700
営業利益	400	1,122	1,089	1,189	1,232	1,070	29	525
営業利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.7	6.3	0.2	3.6
経常利益	390	1,124	1,086	1,191	1,208	1,104	64	565
経常利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.5	6.5	0.5	3.8
当期純利益	▲100	654	622	668	686	521	41	335
当期純利益率(%)	▲0.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.1	0.3	2.3
総資産	10,267	10,529	10,512	11,533	11,470	10,417	10,521	—
純資産	1,888	2,519	3,895	4,408	4,995	5,339	5,289	—
自己資本比率(%)	18.4	23.9	37.1	38.2	43.5	51.2	50.3	—
EPS(円)	▲18.05	107.70	96.29	104.68	107.38	81.61	6.55	52.42
ROE(%)	—	29.7	19.4	16.1	14.6	10.1	0.8	—
BPS(円)	338.36	441.66	599.65	689.82	781.66	835.49	827.65	—

※2004年3月期につきましては、退職給付制度改革を実施し、確定拠出年金制度への全面移行に伴い、退職給付制度変更損失397百万円を計上したため、当期純損失となっております。

【ご参考】：上期・下期別の業績推移



【ご参考】：四半期ごとの業績推移



LECIP

レシップ株式会社

【資料お問合せ先】

IR担当役員：取締役常務執行役員
管理本部長 山口 芳典
電話番号：(058)323-7647

IR担当者：総務部兼経営管理部 野村 武史
電話番号：(058)324-3121

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。